

みみタロウ

Tel/Fax : 077-523-5646
E-mail : mimitaro@s-i-a.or.jp
URL : http://www.s-i-a.or.jp

日本語版 78号 2009年10月

私の新しい職場です!

日本は世界一の長寿国。高齢者が安心してケアを受けられる介護施設の必要性が大きくなっています。今回みみタロウは、特別養護老人ホーム「長等の里」(大津市)のデイケアセンターで働いているマリア・テル・ロザリオ・ウビ・テ・レバノさん、江隅施設長、デイサービスセンター生活支援主任の中倉さんにお話を伺いました。



マリアさん：私は、11歳から16歳まで祖母の世話をしていたこともあり、お年寄りが大好きです。ペルーでは看護師の資格を持っているのですが、8年前に来日してからは工場で働いていました。今、このような職場でお年寄りのお世話ができることになり、とても幸せです。ここにおられるお年寄りのみなさんが自分のおばあちゃんのような気がして、優しい心でお世話をしています。キスをしたり抱いてあげたりすると、「ありがとう」と涙をこぼされたりするんですよ。ここではみなさんと大きな家族のようなもの。沢山の幸せや喜びをみなさんにお届けできればと思っています。どの人もいすれ年を取り、体も不自由になります。お年寄りが道を渡るときには手を添えてあげたり、車がスピードを落としたりすることがあたりまえな優しい社会になればいいですね。



中倉さんとマリアさん

中倉さん：マリアさんが来られることをみんなで楽しみにしていました。自分が外国に行ったことを考えると、ちょっとでもマリアさんに寄り添ってあげればと思い、日本語とスペイン語を教え合ったりしています。職場のスタッフは全員、もうスペイン語で数を数えられるようになったんですよ。

言葉の違いがクローズアップされますが、この職場では、言葉以上に人柄が大切です。日本人同士で言葉が通じて、気持ちがないと思いは通じません。言葉は手段であって後から学習できるものですが、人柄はその人に元々備わったものです。文化的な違いなどを利用者のみなさんがどう受け止めるのか多少心配しましたが、それも取り越し苦労だったようです。「地球の裏側から来ているのに偉いね!」「べっぴんさんや!」と声をかけてもらったり、90歳を越えた方が、少々間違えてはいるものの「ハロー」と話しかけたりと、みなさんの良い刺激になっているようです。もう学ぶことが少なくなる年齢の方々が、こうして外国の人に会ったり、新しい言葉に触れたりするのはとても良いこと。今日あった楽しいことを家に帰ってご家族に話してくれたらと思えます。私たちスタッフも、長い間働いていると、こういうもんだと固定観念を持ちがちですが、マリアさんが来られたことで気づかされることも多々あります。利用者の方々のみなさんも色々ですし、スタッフも色々なメンバーがいることが大切。今後、外国人の方々がケアを受けられる立場になる時が来ると思っています。自分たちでコミュニティを作るのもいいですが、せっかく一緒に住んでいる仲間同士。年を取っても自然な形で混じり合えばいいですね。そのためには、マリアさんのような方がいらっしやることは大切です。一年後にはマリアさんのお茶のサービスに、お年寄りが「グランチャス」と返事をしているような楽しいデイケアセンターを目指しています。

江隅施設長：マリアさんは、ここで初めて迎える外国人スタッフです。特に外国人を雇用しようと思っただけで職員の募集したわけではありません。ハンディキャップのある高齢者を支援するのが私たちの仕事ですので、就職の面接では、優しく親切にしてください。何気ない言葉やしぐさから見させていただきます。マリアさんからは、真面目で優しい人柄が感じられました。ご本人の「この職場で働きたい」という強い気持ちが伝わってきました。言葉や宗教観の違いなどについての不安もありましたが、担当のスタッフが「それは必ず乗り越えて仕事ができる」と言ってくれ、採用することに。現場で学習してもらいながら長く安心して働いてほしいと思っています。言葉や文化の違いなどの面でのサポート団体があることが周知されれば、多くの施設でもっと外国人雇用が広まると思っていますよ。



江隅施設長